

# 木場橋

橋梁形式：一径間プラットトラス鋼橋

架設年次：昭和4年2月

所在地：江東区木場三丁目  
大島川東支川に架かる

橋長：27.0m

幅員：13.3m

橋名由来：昔から材木の集散が行われた木場であったことからこの名がついた。



現在の様子



現在の様子

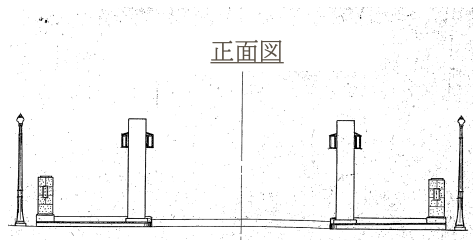


昭和55年撮影

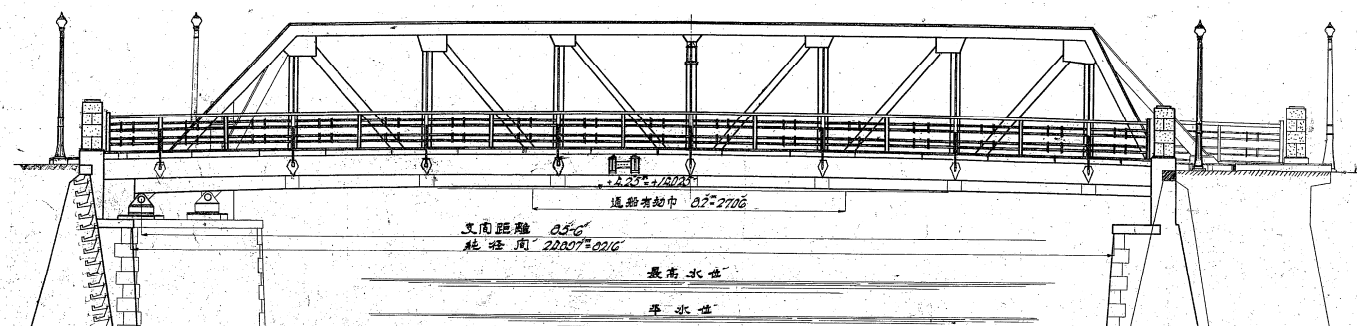
木場橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つである。

トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

プラットトラスとは、トラスの一部で、斜材を橋中央部から端部に向けて「逆ハ」の字に配置したもので、Tomas W. Prattが特許を取ったことから、この名称で呼ばれています。



側面図



## 説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

### 震災復興橋梁について

大正12年(1923年)9月1日の午前11時58分、神奈川県西部(または相模湾中部)を震源とするマグニチュード7.9の大震災(大正関東地震)が発生しました。  
震災前、東京市の橋の大部分は木橋で、多くの橋が被害を受けました。  
震災直後から昭和5年(1930年)にかけて、復興事業の一環として架けられた橋梁は「震災復興橋梁」と呼ばれています。  
東京市に架けられた「震災復興橋梁」の数は、8年間で約400橋で、江東区にも多くの「震災復興橋梁」が架けられました。  
一部の橋は、改修や補修を重ねながら、現在も都市の交通を支えています。

木場橋の概要  
橋梁形式：一径間プラットトラス鋼橋  
橋長：27.0m  
橋幅員：13.3m  
架設年月：昭和4年2月

**江東区**